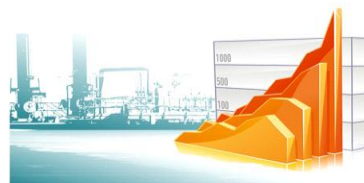


ぎふ経済レポート



平成27年4月分
岐阜県商工労働部

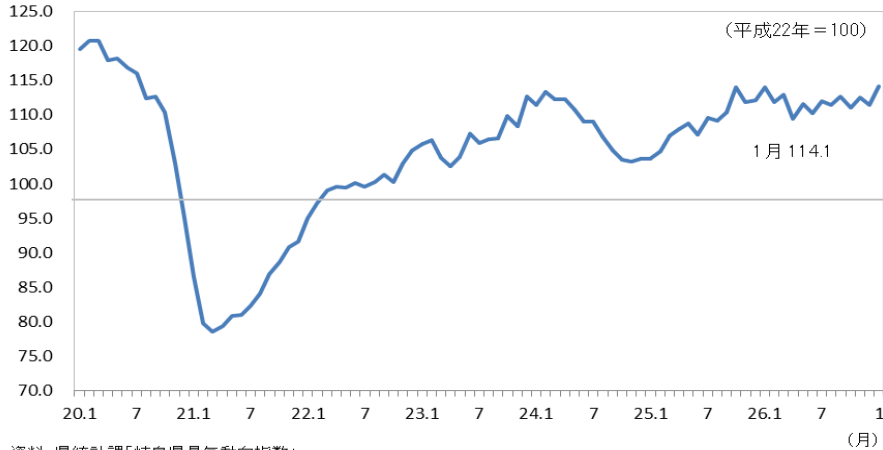
※企業等へのヒアリングは4月22日～24日を中心に実施し、5月8日に作成。

景気動向

- 1月の景気動向指数(一致指数)は、114.1と前月より2.7ポイント上昇した。
- 3月の県内中小企業の景況感は、マイナス28と前月より3ポイント下降した。

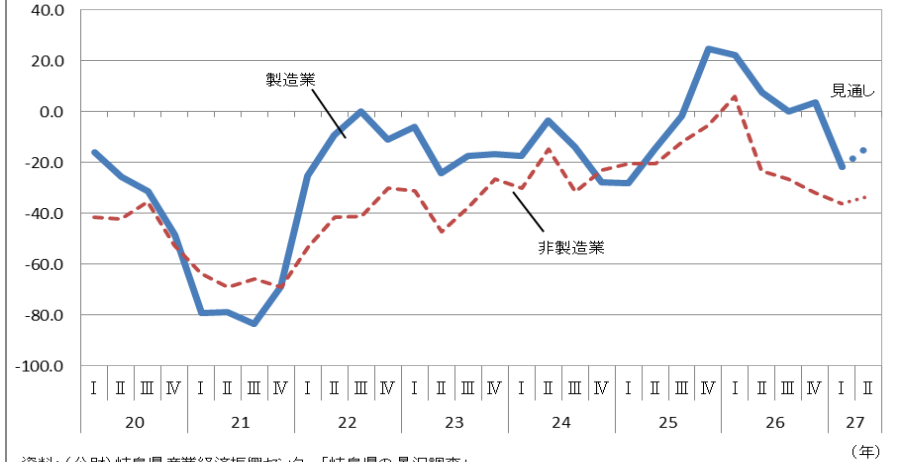
- 平成27年1-3月期の売上高は、製造業、非製造業ともに減少したものの、翌期は、製造業、非製造業ともに、売上高、利益について改善する見通し。

岐阜県景気動向指数(CI)の推移



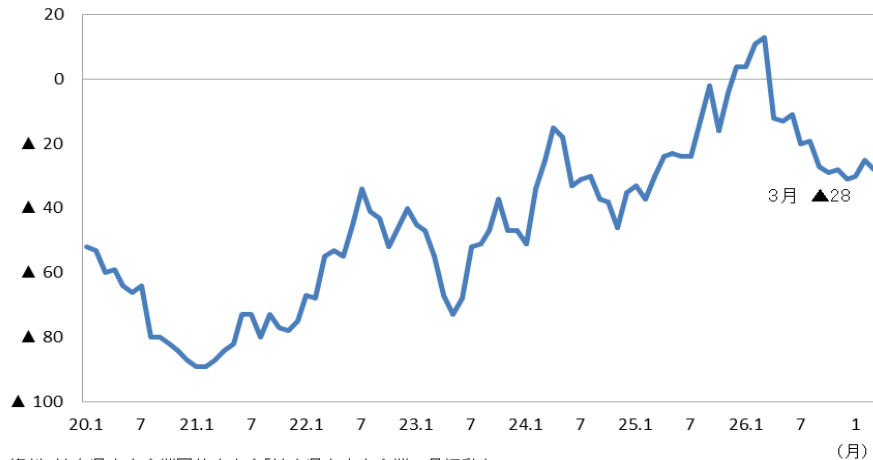
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



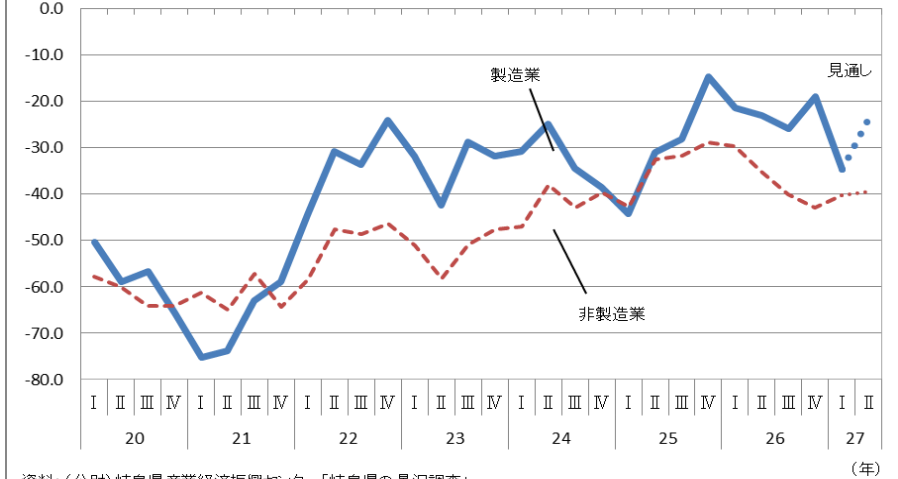
資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」

県内企業の採算DI(増加-減少)の推移



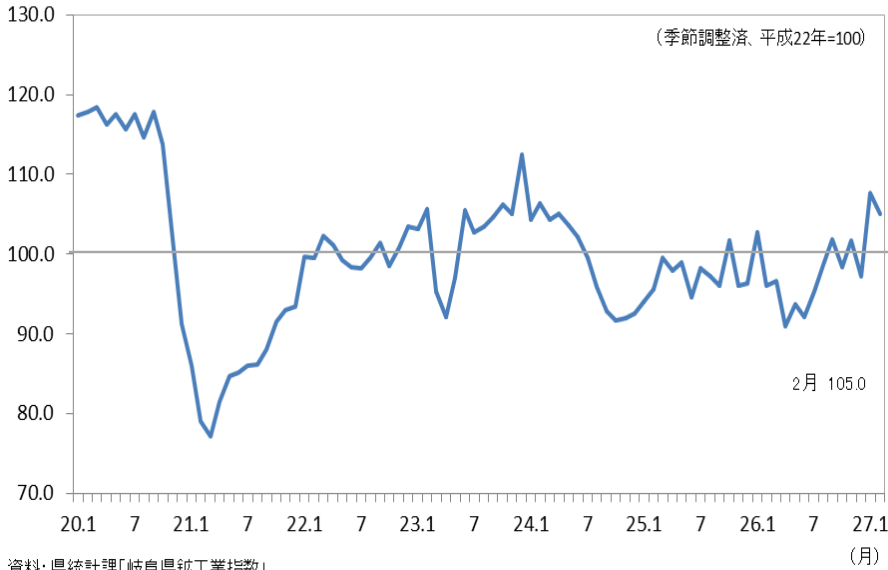
資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

製造業

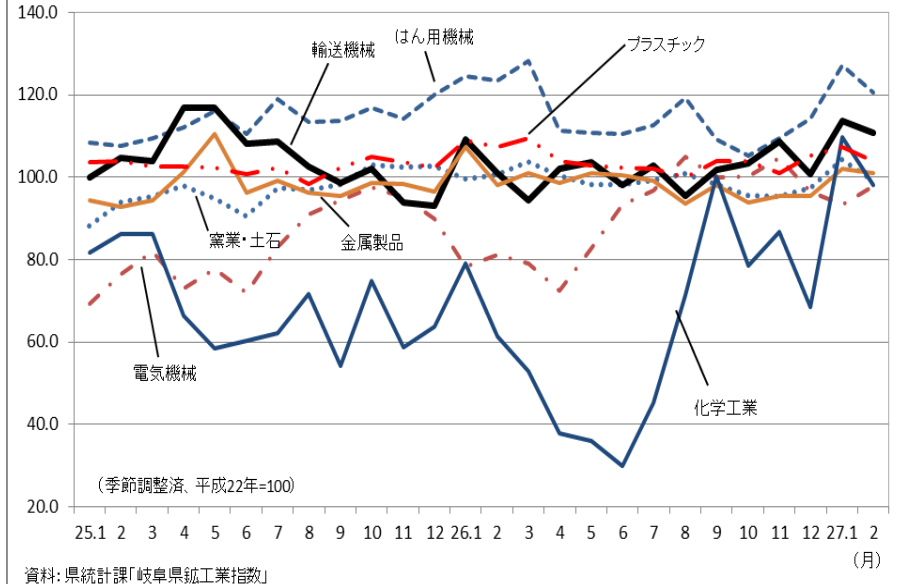
○2月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、105.0と前月比マイナス2.5%となり、2ヶ月ぶりに低下した。

○2月の主な産業の鉱工業生産指数(季節調整済)は、電気機械を除く産業で前月より低下した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数



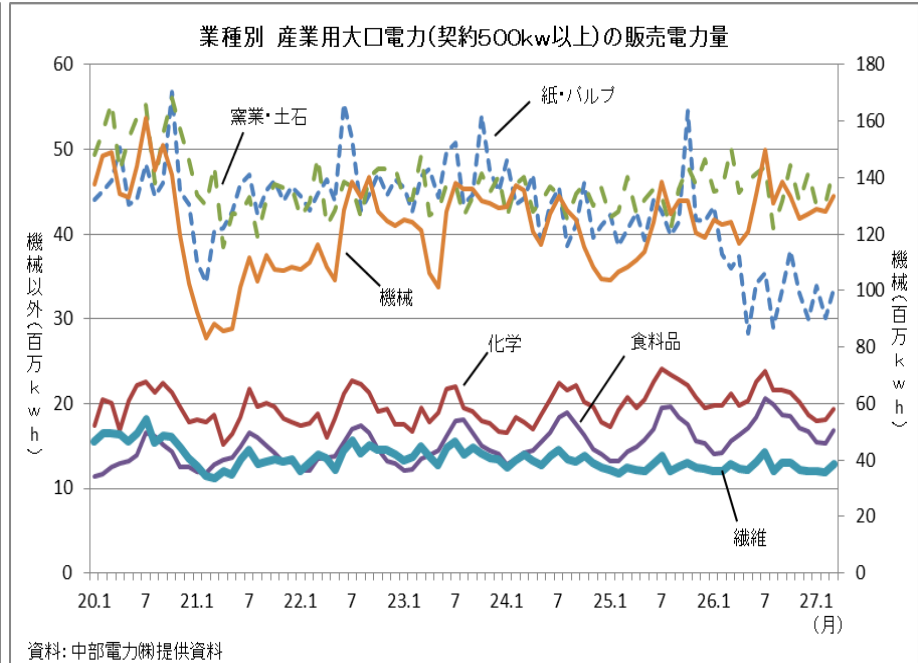
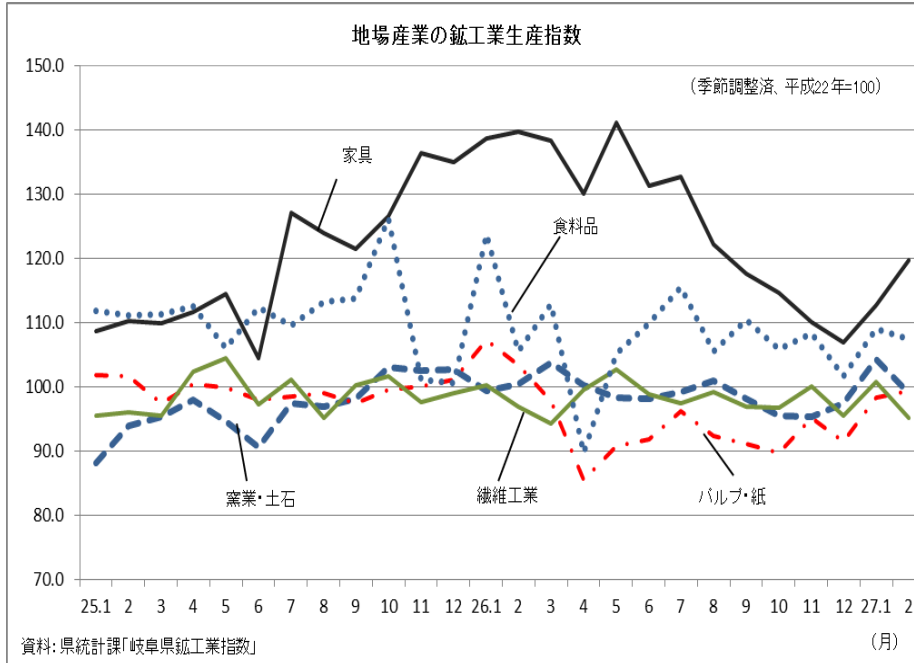
現場の動き

- ◆生産、販売は先月と比較してほぼ横ばい。前年同時期と比較すると、燃料費が下がった分業況が良くなった。
- ◆自動車関連は売れ筋車種の影響で伸びている。(以上、輸送用機械)
- ◆売上・受注とも4~6月期は対前年比で1割程度増加する見通しである。(非鉄金属)
- ◆中国向けのスマホ関連製品で売上・受注とも好調である。(金属製品)
- ◆受注は堅調に推移。ほぼフル生産体制が続いており、外注先への発注量を増加させ始めている。
- ◆6~8月に金型の設計依頼があり、受注は順調である。(以上、生産用機械)
- ◆売上・受注とも7~8%程度増加。(はん用機械)
- ◆電子基盤部門が好調であり、PC・スマホ向製品の受注増により、同部門売上高が前月比21%増加した。(プラスチック)

製造業-2

○2月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数(季節調整済)は、パルプ・紙、家具を除くすべての産業で前月より低下した。

○3月の工場向け電力販売量は、紙・パルプが14ヶ月連続で、化学が9ヶ月連続で、窯業・土石が5ヶ月連続で前年を下回った。

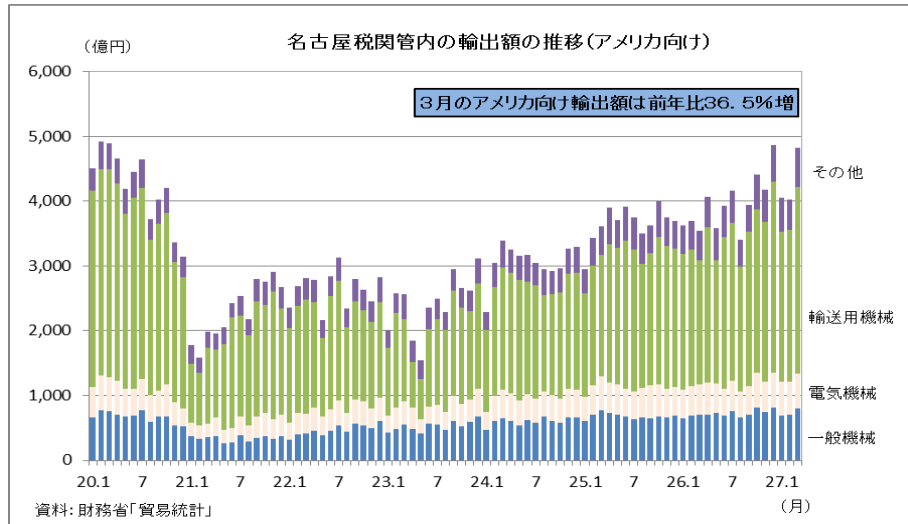
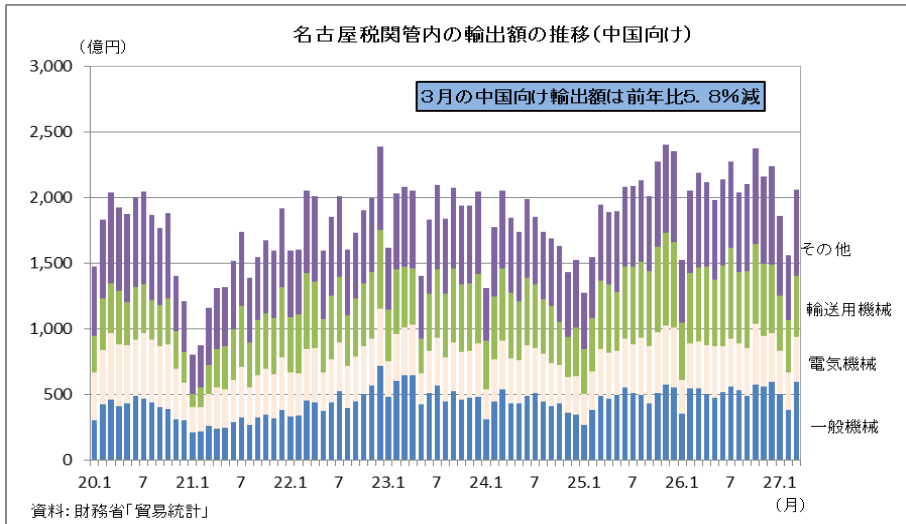
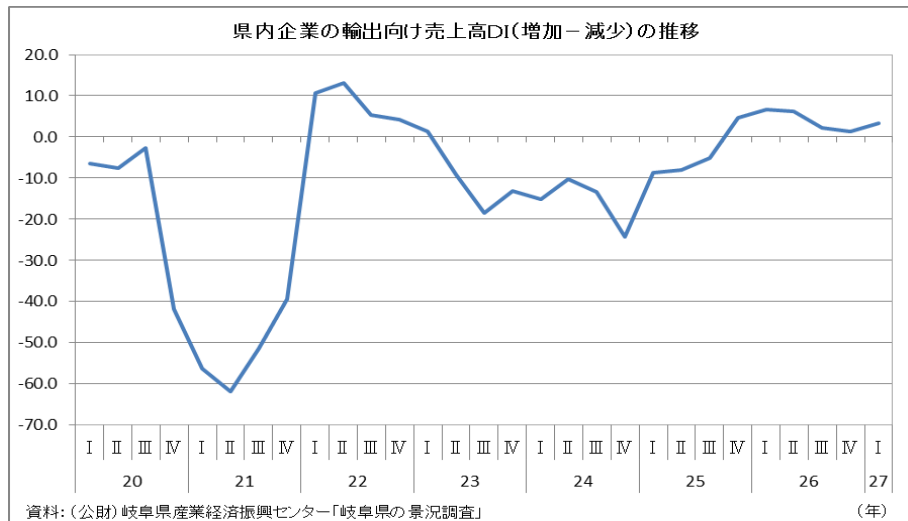
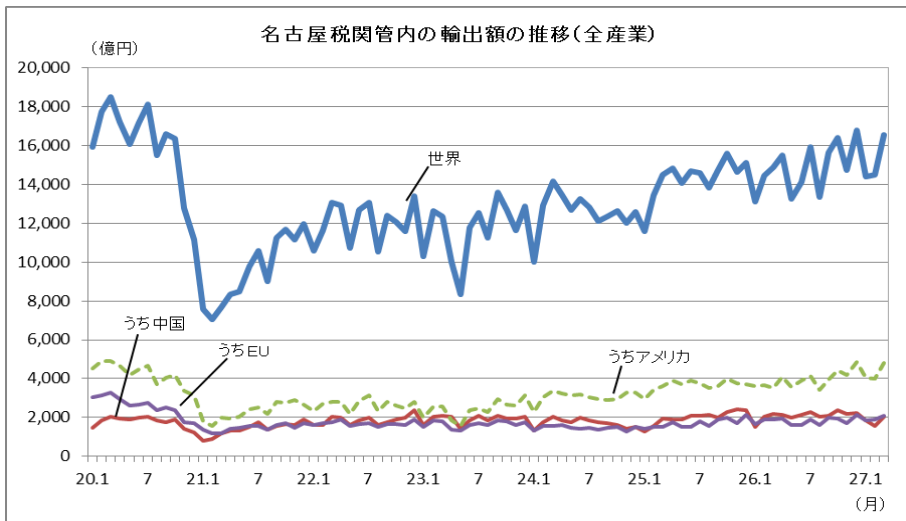


現場の動き

- ◆海外向けが好調であり、売上・利益ともに過去最高益を記録した。(陶磁器)
- ◆首都圏の消費回復により下請受注が増加した。(木工)
- ◆業況全般は例年と変わりなく、売上・受注ともにほぼ予算通りに推移。(紙)
- ◆国内売上は厳しい状況にある。一方で、アメリカ、中近東を中心に海外は好調を維持している。(刃物)
- ◆円安による原料コストの高止まりが続いている。(アパレル)

輸 出(名古屋税関管内)

- 3月の輸出額は1兆6,563億円で、前年同月比11.3%増と7ヶ月連続で前年を上回った。
- うち中国向けは、一般機械を除く産業で減少し、同5.8%減と2ヶ月連続で前年を下回った。
- うちアメリカ向けは、すべての産業で増加し、同36.5%増と7ヶ月連続で前年を上回った。
- 県内企業の輸出向け売上高は前期に比べ僅かに増加しており、引き続き好調を維持している。



為替・原油価格の動向による影響について

- ◆円安で安定していることから、差益、差損のどちらもほとんど発生していない状況。(輸送用機械)
- ◆円安や原油安の影響は感じられない。(生産用機械、はん用機械)
- ◆円安の影響により、北米向けの車種の生産量が増加しており、引き続き好調な状況は続いている。(生産用機械)
- ◆輸入原料が多く、為替差損が拡大している。一部は販売価格に転嫁しているが、当社負荷が増加している。原油価格の低減は利益回復に寄与するも、大量に使用する製品の低迷にて効果が半減している。(食料品製造)
- ◆アルミ等の原材料費は横ばい状態である。(非鉄金属)
- ◆原油価格の下落傾向に伴い、LPガス燃料費が毎月値下がり(前年比で1/2程度)している。(金属製品)
- ◆原油価格下落に伴い取引先からの値下げ要請が予想されるが、今年の原料価格高騰に伴う値上げの未達分及び電気料金・物流費等経費の増加が続いている状況を理由に理解いただく取組みを行っている。(プラスチック)
- ◆為替の影響で原材料費は高くなっているが、価格に反映できないため利益が減っている。(アパレル)
- ◆円安により原材料価格が高値で推移しており、原価に占める割合が高まっている。(紙)
- ◆円安による国産材製品の販売量増加等の影響は感じられない。(製材)
- ◆原油価格の下落が円安による輸入価格上昇分を上回っており、経済全体が上向くことで、本来の円安メリットが発揮され、最終的に消費回復につながることを期待する。(コンビニ)
- ◆軽油・ガソリンが値下がり恩恵を受けているが、今後の動向に注意が必要。(運輸)
- ◆円安による原材料高騰により、陶磁器産業、運送業に影響がでている。
- ◆昨年、円安倒産が発生した事例があるため、輸入動向には注視している。(以上、金融)

アベノミクスの効果・影響について

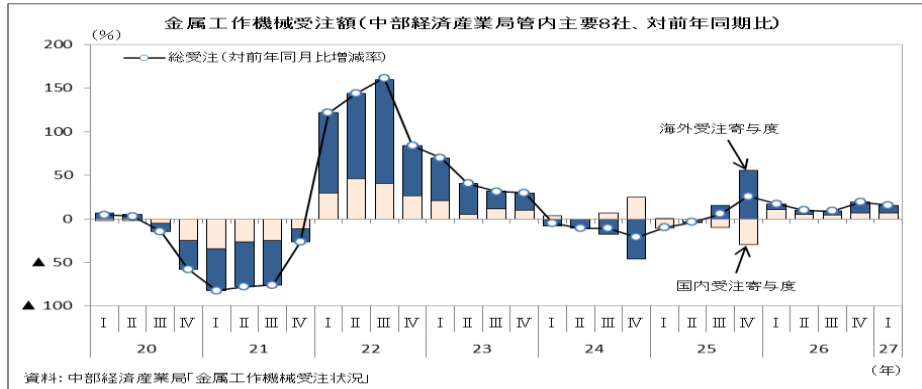
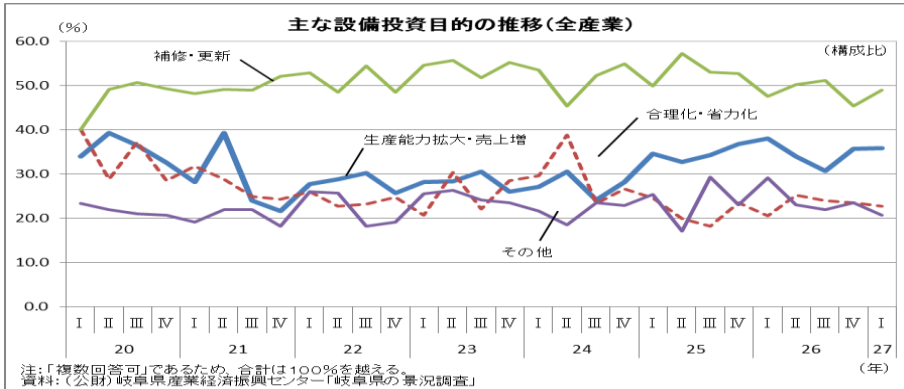
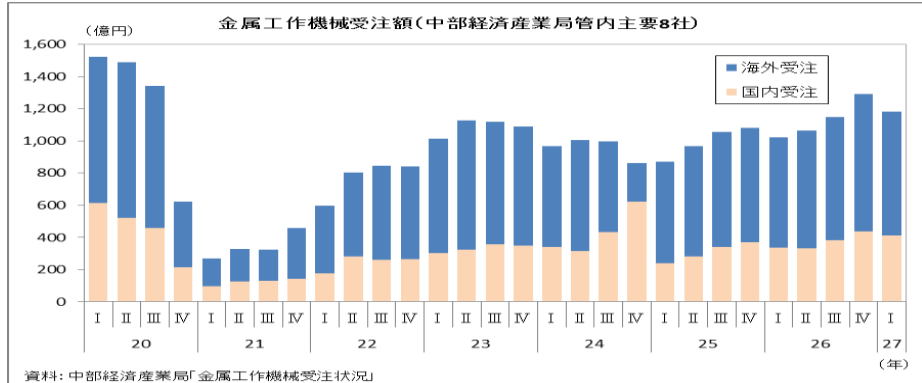
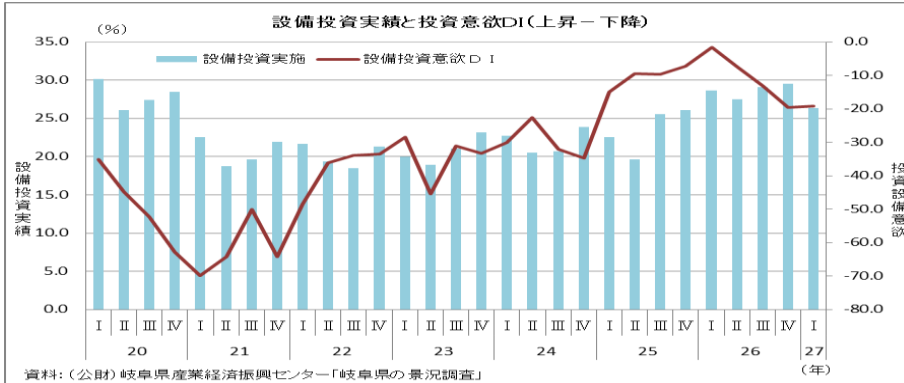
- ◆トヨタ自動車が2015年上期の部品調達価格の値下げ要請を見送ったことなどから、少しずつではあるが、効果が感じられるようになった。
- ◆高級車の販売が好調であることから、一定の効果を感じる。
- ◆補助金や税制優遇などを有効に活用している。(以上、輸送用機械)
- ◆人材難、円安の影響、エネルギーコスト・最低賃金上昇などもあり、加盟店の経営実態は厳しい。だが、株高や賃上げ期待など明るい話題があり、購買意欲の高まり、一般消費者の消費者心理の改善を期待する。(コンビニ)
- ◆外国人観光客は多く、アベノミクス効果(円安等)があると思われる。(高山商店街)
- ◆中小企業が原材料高騰によるコスト高を販売価格に転嫁できない状況に変わりはなく、依然として厳しい。
- ◆自動車関連産業にはプラスに働いているが、建設業にはマイナスに働いている印象を受ける。(以上、金融)
- ◆アベノミクス効果は感じられない。(アクティブG、家電、商店街、住宅)

昨年4月からの消費税増税の影響について

- ◆3%→5%の引上げ時と比較して、自動車業界だけでなく、各業界ともに駆け込み消費は少ないように思われる。
- ◆昨年4月以降の生産量の落ち込みもなく、今後も影響はないと想定している。(以上、輸送用機械)
- ◆消費税増税や生活必需品の値上げにより衣料消費全体の減少が続いている。(アパレル)
- ◆昨年3月の駆け込み需要の反動減で8月までは良くなかったが、8月以降は、3月の駆け込み需要で建てられた住宅の内装工事が始まったことにより需要が増加したが、現在はそれも落ち着いている。年間を通してみると、駆け込み需要分によって先食いした分はカバーしきれない。(紙)
- ◆10%への増税が延期された時期から、客足が伸びなかった。(製材)
- ◆日商前年比、平均客数前年比からも駆け込み消費の反動減によるマイナスが一巡し、回復基調にあることが読み取れる。(コンビニ)
- ◆消費税率引き上げ当初は落ち込みもあったが、4月時点で前年並みの受注が維持できており、大きな影響はなかった。(住宅関連)

設備投資

- 平成27年1-3月期の設備投資実績は3期ぶりに減少した。目的別では、「生産能力拡大・売上増」は前月と同水準で推移し、「補修・更新」が増加した。
- 設備投資意欲は4期ぶりに増加した。



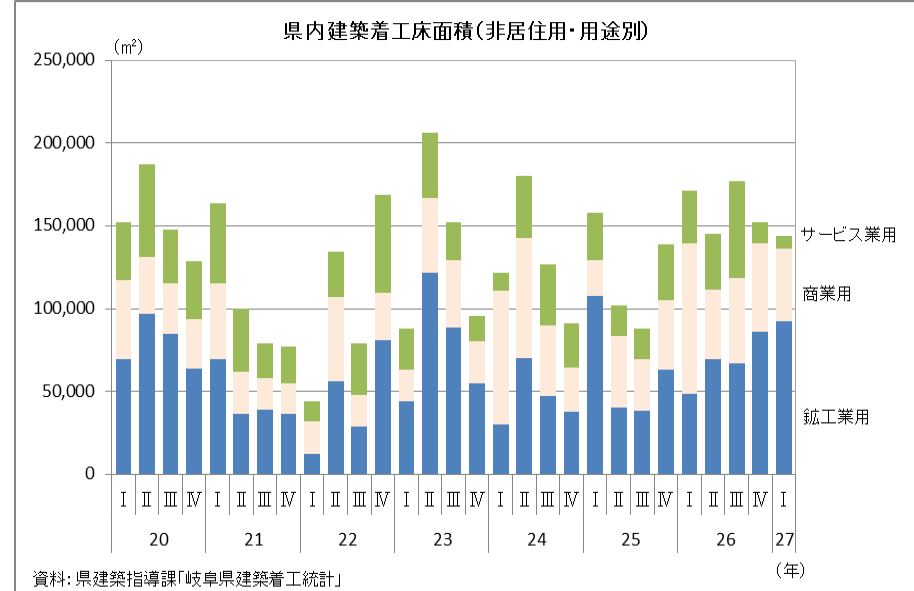
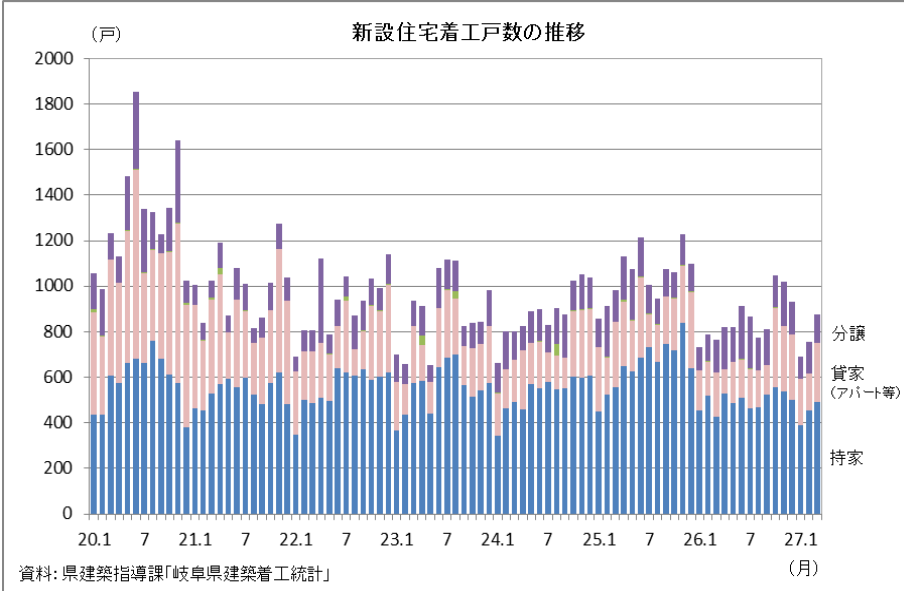
現場の動き

- ◆8月稼働に向け新工場の内装工事、新設備の導入に着手。(食料品製造)
- ◆4月に新工場を竣工し、現在、設備機械のテスト稼働を行っている。(輸送用機械)
- ◆ここ数年設備投資を行っていなかったが、12月に3億円程度の設備を導入予定である。(はん用機械)
- ◆合理化を目的として機械設備を更新した。(プラスチック)
- ◆航空関連産業は下請受注が好調で、設備の更新が盛んである。(金融)

住宅・建築投資

○3月の住宅着工戸数は、分譲住宅が2ヶ月ぶりに前年を下回ったものの、持家が14ヶ月ぶりに前年を上回り、全体で前年同月比15.7%増と15ヶ月ぶりに前年を上回った。

○平成27年1-3月期の建築着工床面積は、鉱工業用が増加したものの、商業用、サービス業用が減少し、全体では前年同期比16.0%減と6期ぶりに前年を下回った。

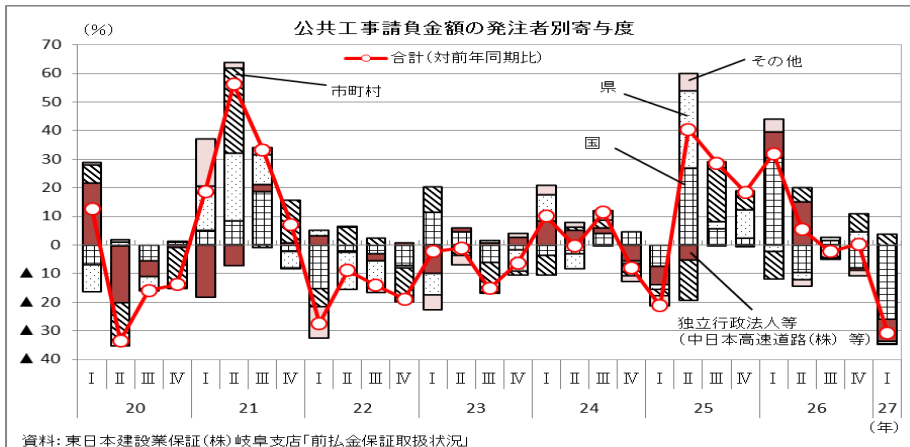
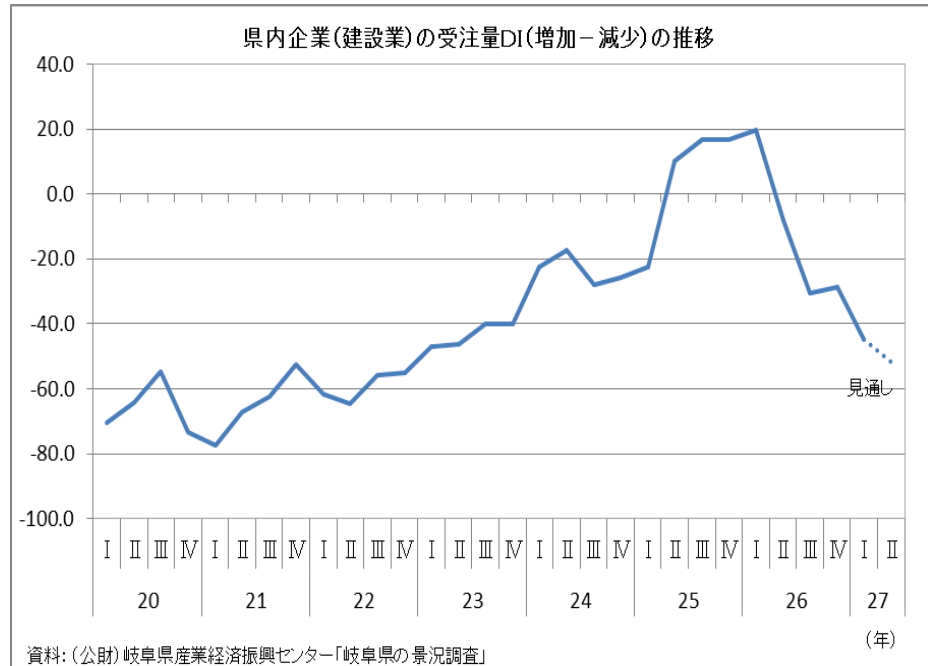
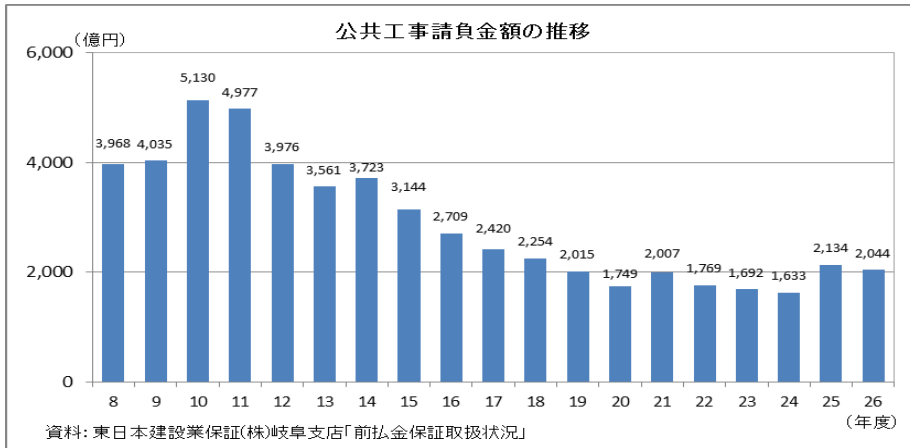


現場の動き

- ◆受注件数は前月と同水準。連休の集客に向け、新商品の発表をかねたイベントを計画。(住宅建設)
- ◆柱、梁、土台等の構造材は対前年比で落ち込んでいる。(製材)
- ◆プレカットの受注は、4月から少し増加している。製品(柱、土台)は建築戸数の減少により、通柱は建築様式の変更で需要がなく出ていかない。構造材は低コスト住宅化で、安価なものに変わっている。(国産材市場)
- ◆A材(製材用材)は製品価格の回復は見られないが、スギについては引き合いが強い。B材(集成材)も製品需要は旺盛であるが、製品市況については芳しくない状況。
- ◆C・D材(チップ・燃料用材)については、バイオマス発電施設稼働に伴う原木需要増の影響等から需要が非常に旺盛な状況が続いている。(以上、森林組合連合会)

公共工事

- 平成26年度内に県内で実施された公共工事請負額は2,044億円で、前年度比4.2%減少した。
- 平成27年1-3月期の公共工事請負金額は、前年同期比30.7%減と2期ぶりに減少に転じた。市町村を除くすべての発注が減少した。



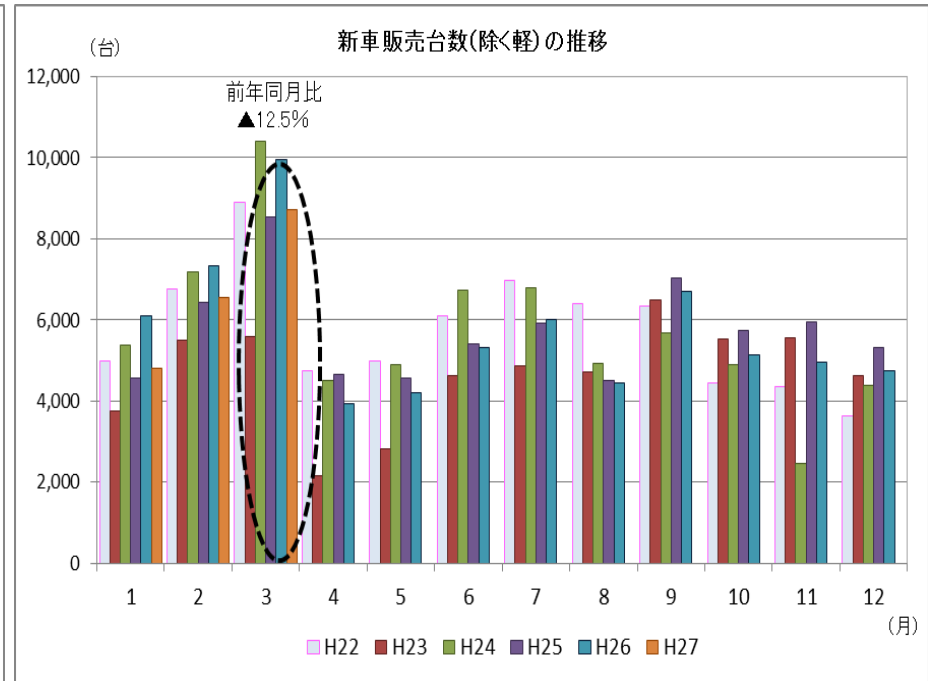
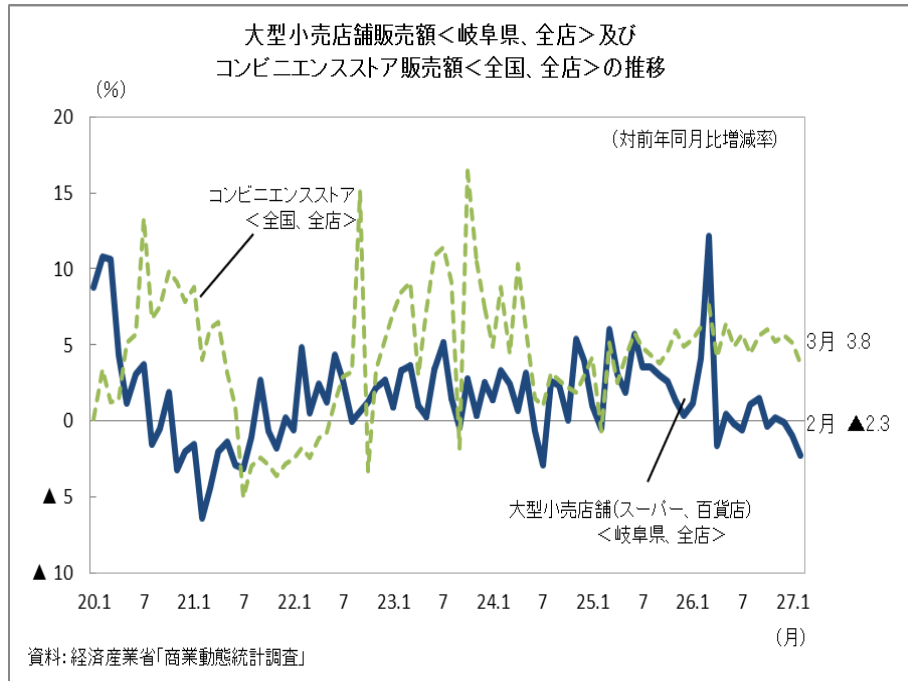
現場の動き

- ◆年度末工事が一段落したところが多く、公共工事及び民間工事においても、工事規模の大小問わず、手持ち工事量としては少ないと感じている。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

○2月の大型小売店販売額は、前年同月比2.3%減と3ヶ月連続で前年を下回った。

○3月の自動車販売(除く軽)は、前年同月比12.5%減と8ヶ月連続で前年を下回った。



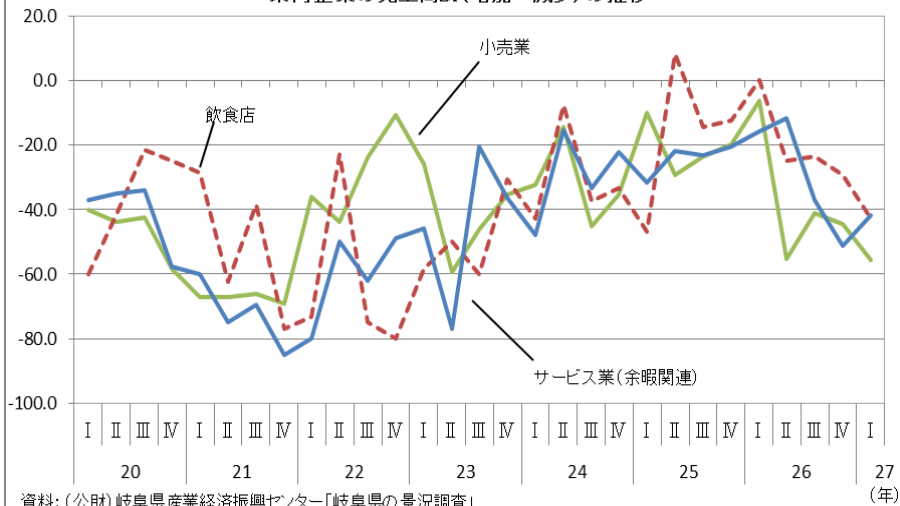
現場の動き

- ◆売上は前年同月比110%。駆け込み消費の反動減によるマイナスが一巡した感がある。
- ◆宝飾時計、美術品は売れ行きが好調であった。
- ◆食品やタバコ、カウンセリング化粧品、紙おむつなどが、昨年増税前の買い溜めによる反動で不調だった分、今年4月売上は前年同月比120%まで改善した。(以上、大手小売店)
- ◆売上については、昨年落ち込んだ分良くなっているが、消費意欲が回復したとは言い難い。(スポーツ用品)
- ◆客数は、前年同月比110%。売上は、同120%と大きく改善した。(家電)

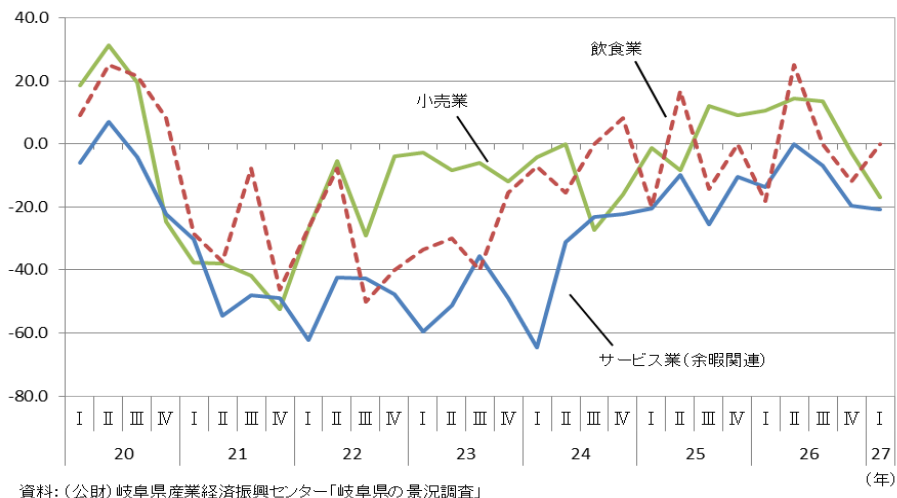
個人消費(流通・小売)－2

○平成27年1－3月期の飲食業について、売上高は減少したが、販売価格は増加した。サービス業については、売上高は増加したが販売価格は減少した。小売業については、売上高、販売価格ともに減少した。

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇-下降)の推移



現場の動き

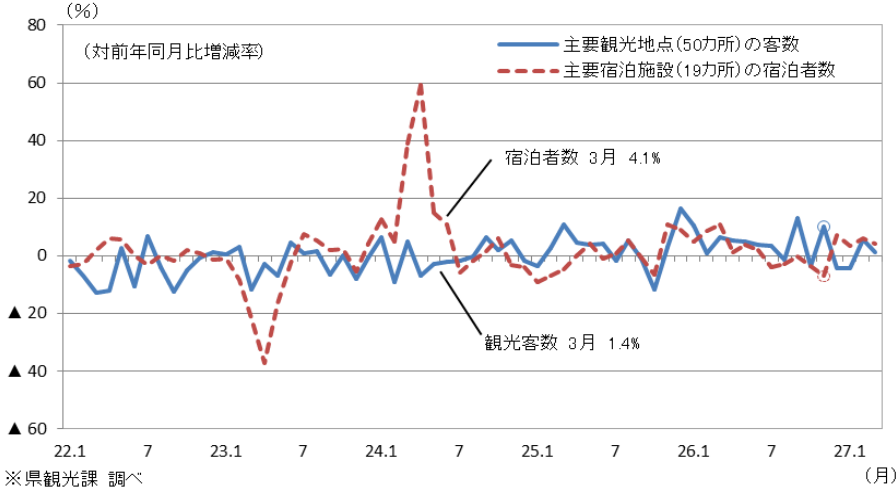
- ◆天候不順により、4月前半は人通りが少なかった。
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比90%。飲食店が同100%、メガネ店が同130%。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比95%。和菓子店が同95%。(大垣市商店街)
- ◆売上は、土産・雑貨店が前年同月比105%、衣料品店が同90%。外国人観光客が増えている。(高山市商店街)
- ◆売上は、酒類販売が前年同月比100%、子ども服も同100%。(多治見市商店街)
- ◆物販は新店及び各店フェア開催により部門全体としては好調に推移。
- ◆衣料品関係は、気候の影響もあり春物の動きが悪く苦戦する形となった。(アクティブG)
- ◆1日あたり1店舗平均の客数は前年同月比103.7%と前月より改善、売上も同110.7%と前月より改善。(コンビニ)

観光

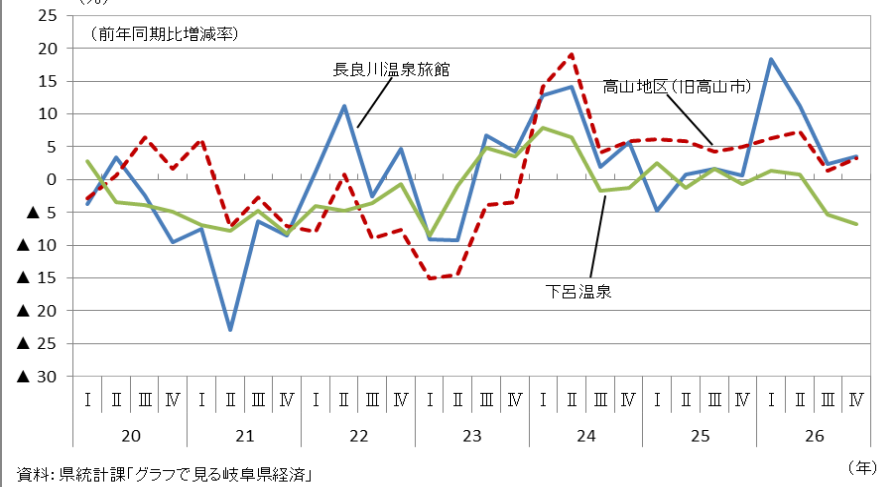
○主要観光地における3月の観光客数は、前年同月比1.4%増と2ヶ月連続で前年を上回った。主要宿泊施設における宿泊者数は同4.1%増と4ヶ月連続で前年を上回った。

○平成26年10－12月期の観光(宿泊)客数は、長良川温泉旅館が前年同月比3.5%増、高山地区(旧高山市)が同3.2%増と、下呂温泉(同6.8%減)を除き前年を上回った。

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要観光地 観光宿泊客数の推移



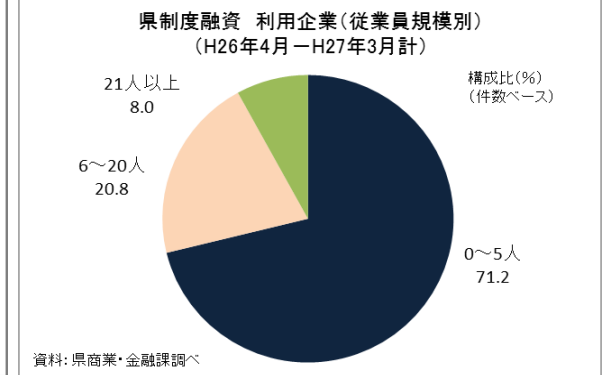
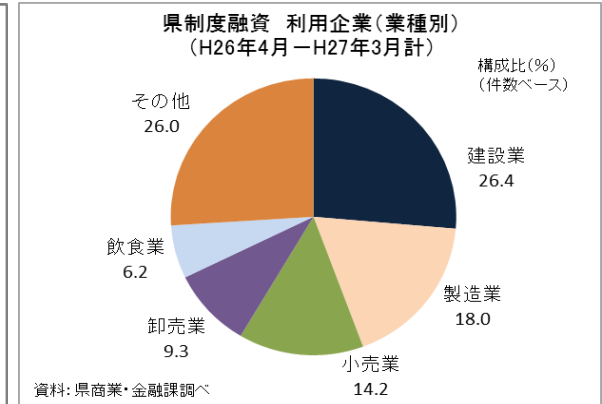
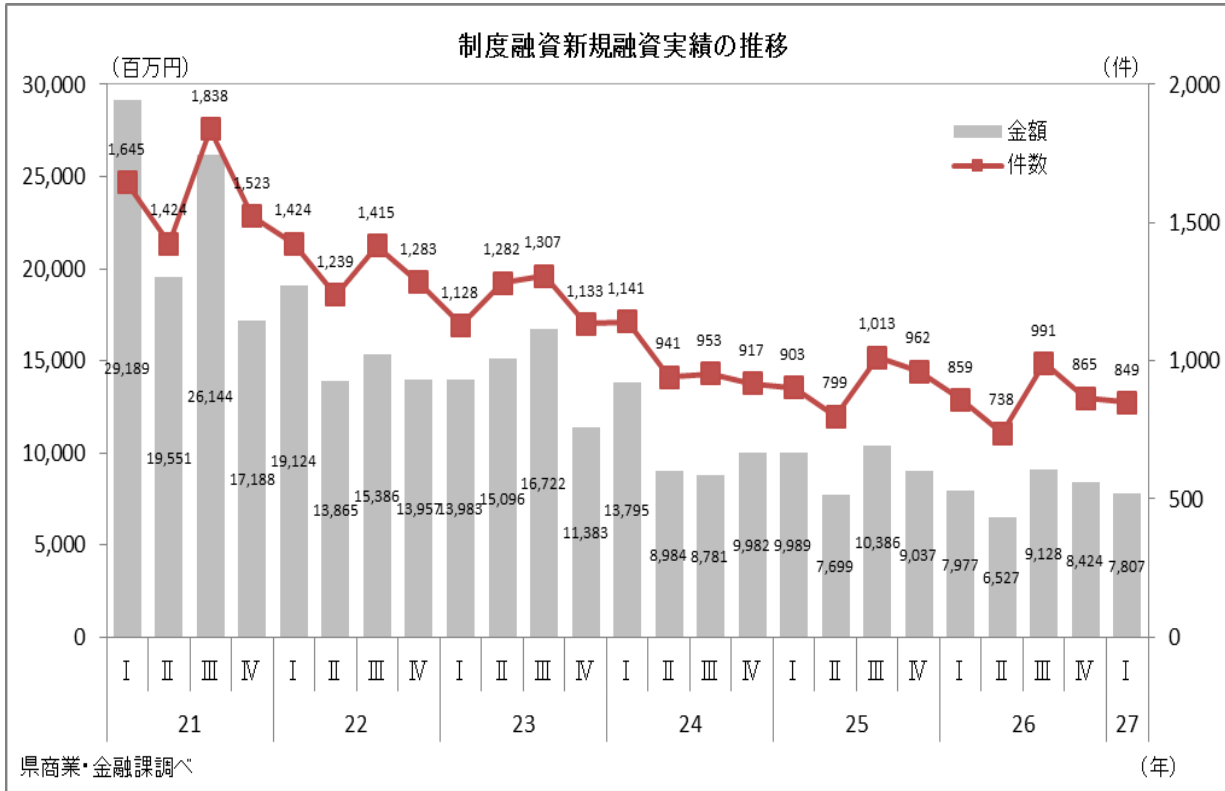
現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、トータルで前年を上回っており、アジアからの観光客の増加等により、好調を維持している。(観光地総括)
- ◆インバウンドが非常に好調で、個人客も少しずつ増えている。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆企業の連泊が多数有り。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆バス代の高騰が価格の高騰を招き、お客様の集まりに影響が出ている。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは東南アジアが伸びており、台湾も過去最高を記録。
- ◆北陸新幹線の影響は出ていない。最寄の富山駅からの2次交通が不便である。FIT(個人手配の海外旅行)は増加傾向。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆団体旅行はバス代高騰が影響している。インバウンドは台湾、シンガポール、マレーシアなどで伸びている。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

○制度融資新規融資実績は、平成21年秋口から減少傾向にある。平成27年1-3月期の取扱件数は前年同月比1.2%減と5期連続で前年を下回り、融資額は同2.1%減と6期連続で前年を下回った。

○建設業・製造業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が7割を占める。

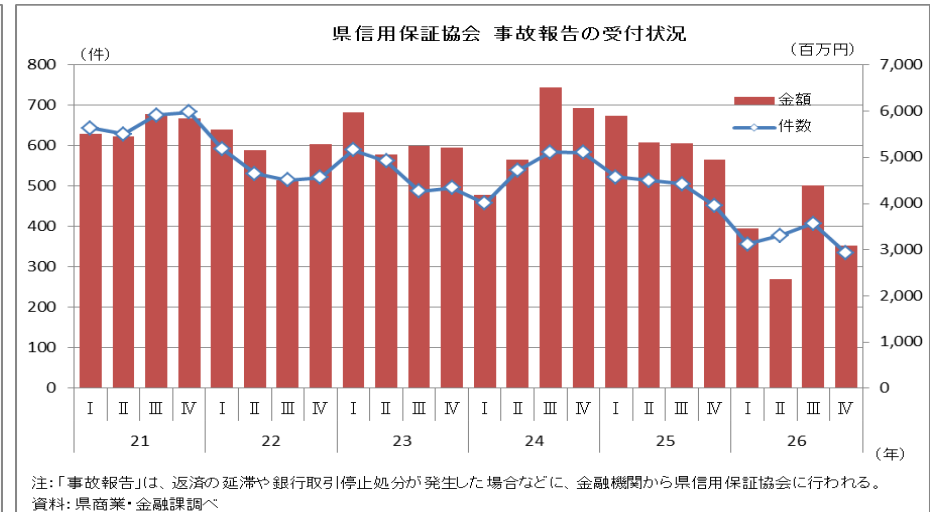
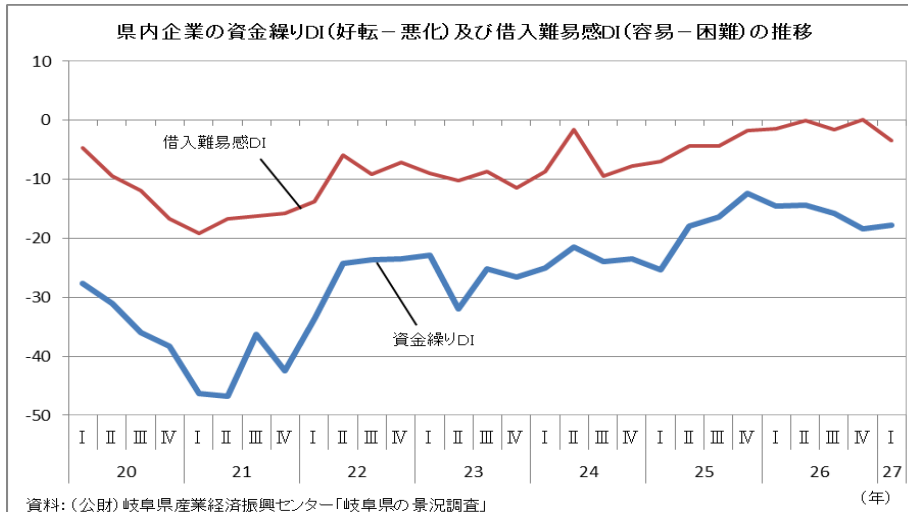
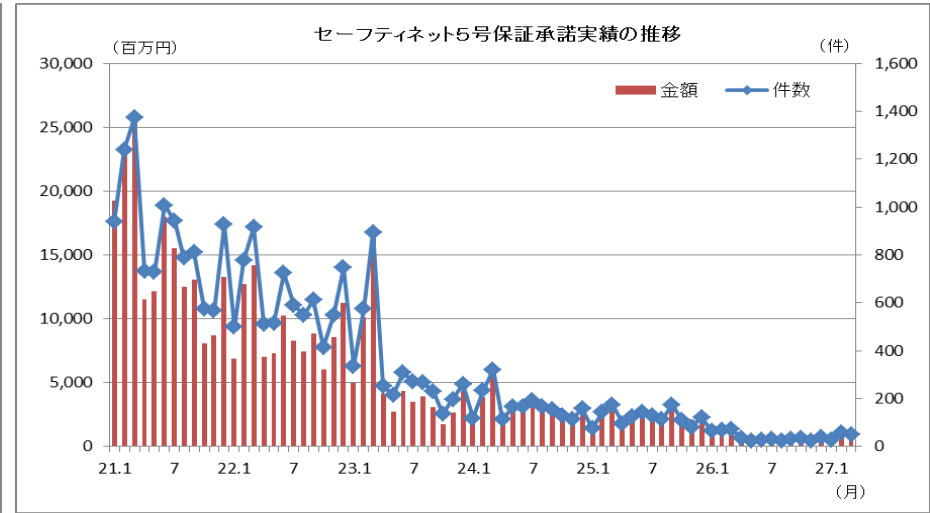
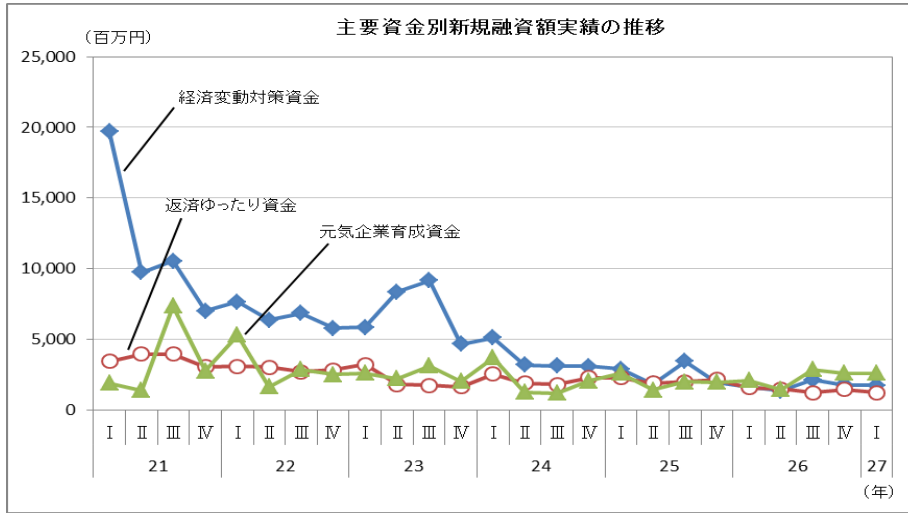


現場の動き

- ◆卸売業、不動産業、繊維業への融資が好調である。
- ◆業種に限らず経営状況が良いところが増えてきた。
- ◆設備投資の回復の兆しは見られるものの、業種間の格差が拡大している。(以上、金融)

資金繰りー2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資額実績、業況の悪化している業種に属する中小企業者を支援するための措置である「セーフティネット保証5号」の承諾実績は、平成21年秋以降減少傾向にある。
- 資金繰りについては、回復基調に一服感がある中で、借入難易度が2期ぶりに減少した。



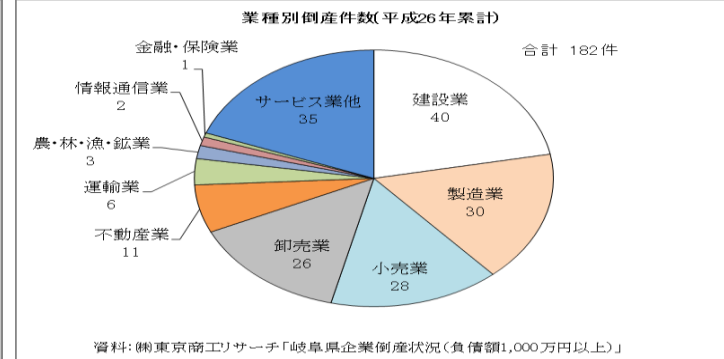
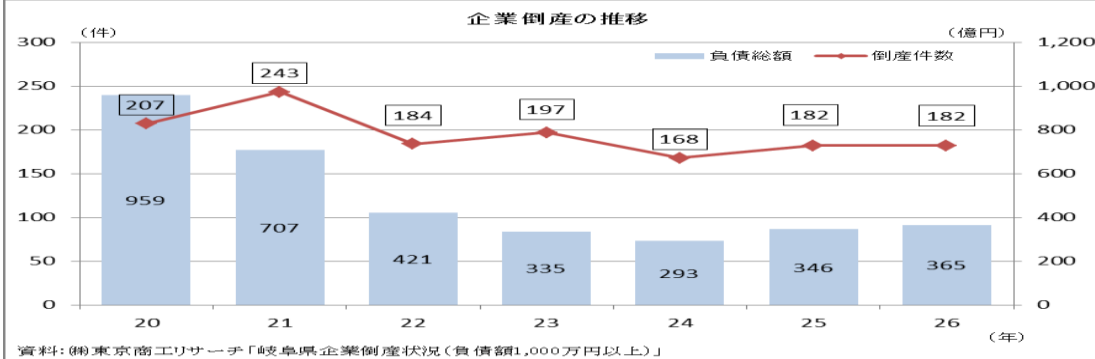
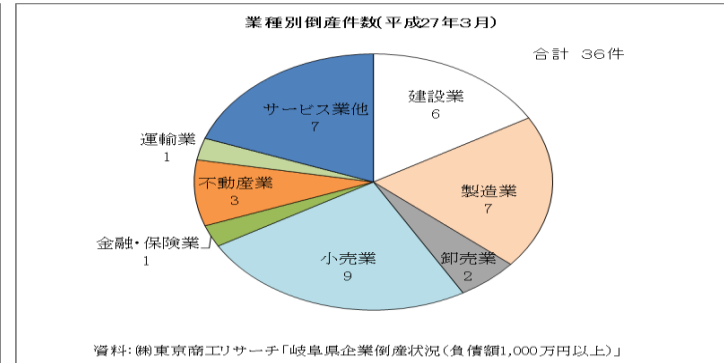
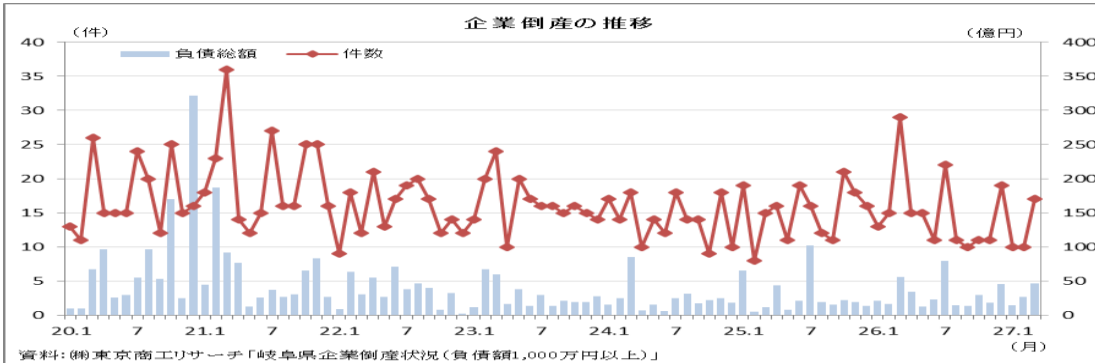
資料: (公財) 岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

注: 「事故報告」は、返済の延滞や銀行取引停止処分が発生した場合などに、金融機関から県信用保証協会に行われる。
資料: 県商業・金融課調べ

倒産

○3月の倒産件数は前年同月比41.4%減の17件、
負債総額は同17.5%減の46億2,200万円となった。

○業種別では、建設業と製造業で
倒産件数の4割を占めている。



専門機関の分析(東京商工リサーチ)

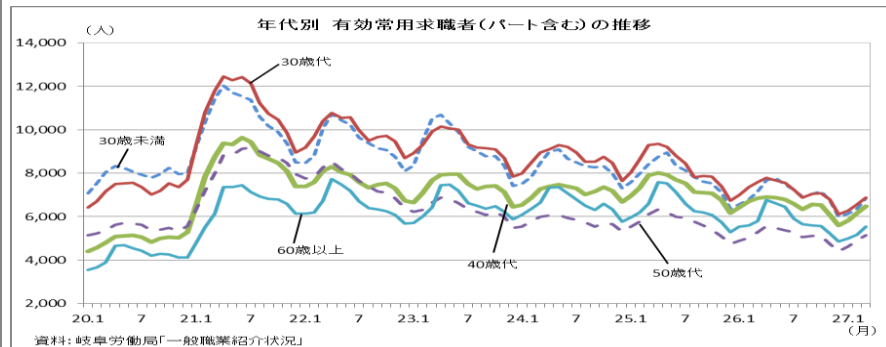
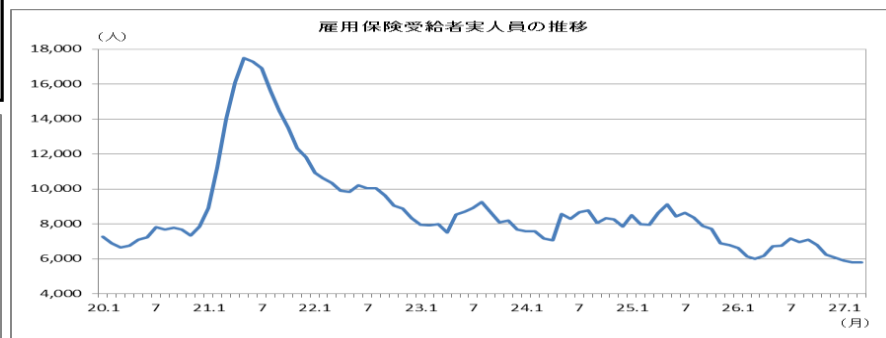
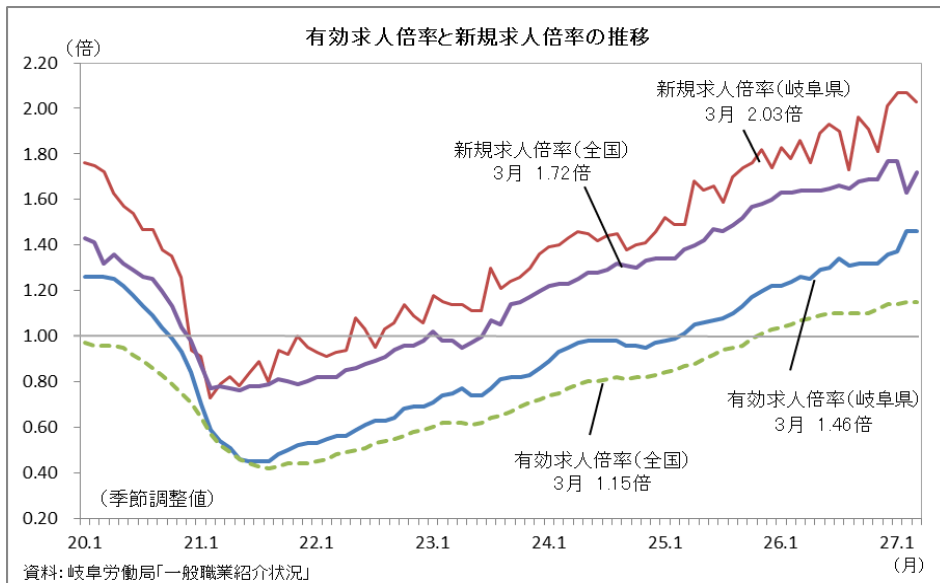
- ◆負債総額10億円超の大型倒産が1件あったが、1億円未満の小口倒産が全件数の70%を占めており、倒産は依然として小型主体で推移している。
- ◆業歴10年以上が全件数の70%を、10人未満の企業が全件数の80%を占めた。
- ◆円安や原油安が進行して、輸入企業のみならず輸出企業にも収益低迷の要因となり、加えて、原材料他の上昇で内需型の中小零細企業の収益悪化が懸念される。金融機関の融資姿勢は収益改善の進まない中小零細企業への貸出条件の緩和策を進めているが、抜本的に経営体質を改善することは容易ではなく、依然として厳しい中小企業は少なくない。夏場に向けて中小零細企業を中心に企業倒産が増加を辿る可能性が有り得る。

雇用

○3月の有効求人倍率(季節調整値)は1.46倍と前月と同水準となった。

○3月の新規求人倍率(季節調整値)は2.03倍と前月より0.04ポイント低下した。

○3月の雇用保険受給者人員は前年同月比3.5%減と21ヶ月連続で前年を下回った。



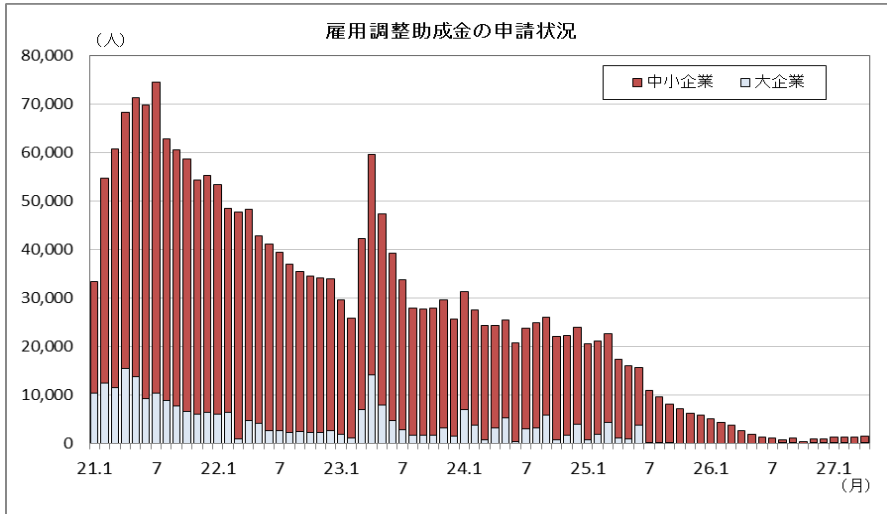
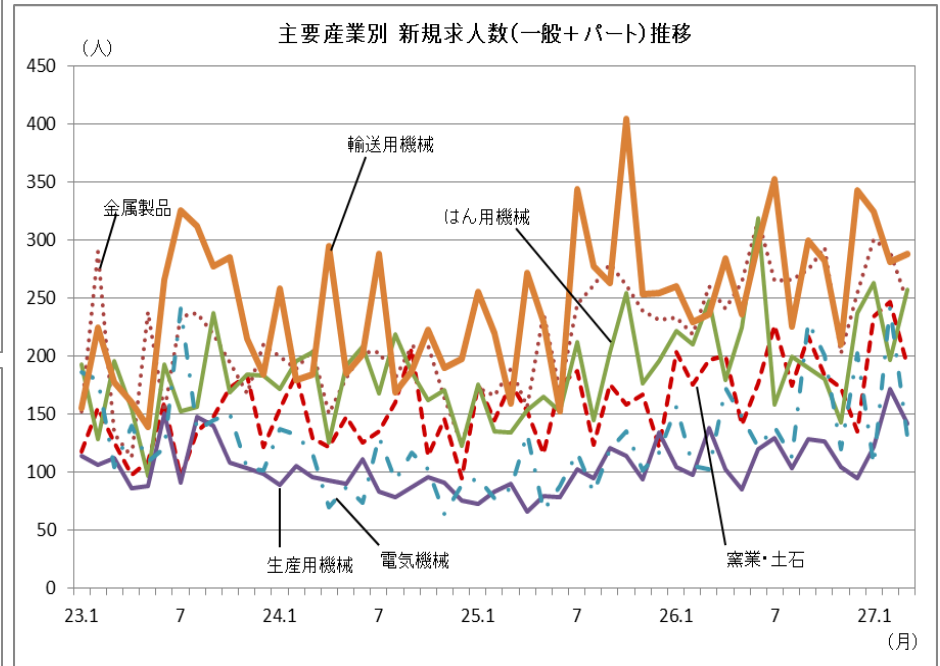
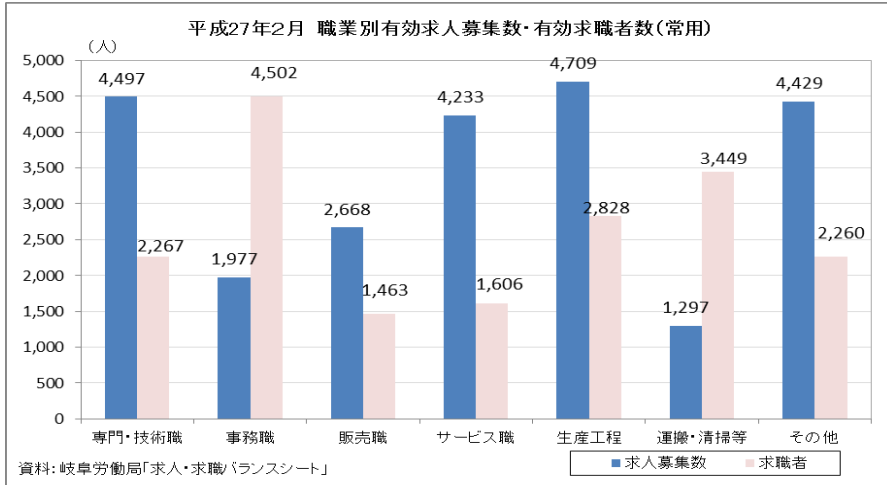
現場の動き

- ◆全体的な求人応募者の減少は止まらず。若年層女性パートのみ微増。(食料品製造)
- ◆工場増設を見据えて、4月に途中で7名を採用。(金属製品)
- ◆就職募集時期が変わり、来年度の新入社員が確保できるか懸念している。(プラスチック)
- ◆バイトスタッフが入替わる時期だが、求人応募者が少ない状況が続いている。(家電、運輸、アクティブG)
- ◆人手不足の状況が続いており、パソコン等からの面談予約により募集体制を強化した。(コンビニ)
- ◆賃金を上げることで人手を確保しようとする動きがあり、結果として中小企業が人を雇いにくい状況に陥っている。
- ◆専門職が引き続き人手不足感が強い。(以上、金融)

雇 用(職業別)

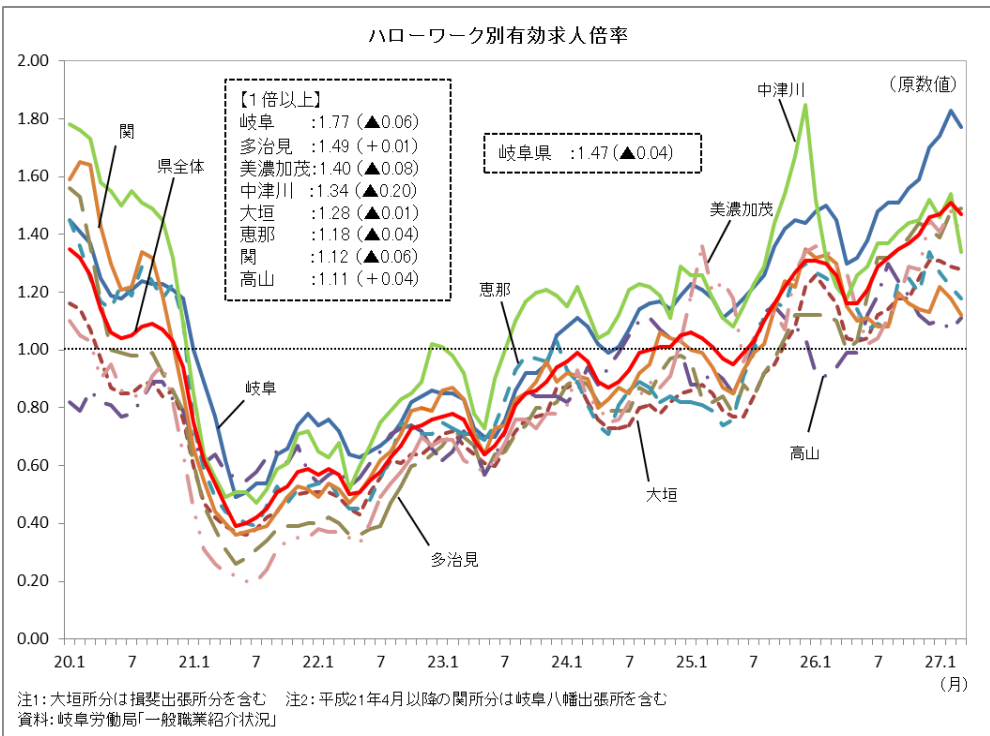
- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では、求人募集数と求職者数のギャップが大きい状況が続いている。
- 雇用調整助成金は東日本大震災直後に急増したが、現在は減少傾向にある。

- 3月の主要産業における新規求人数は、電気機械が前年同月比27.5%、輸送用機械が同22.7%、はん用機械が同3.6%、生産用機械が同2.9%増加したが、金属製品が同5.0%、窯業・土石が同2.5%減少した。



雇用(地域別)

現場の動き(先月比)



＜ハローワーク岐阜＞
◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク大垣＞
◆求人者数、求職者数はともに増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク多治見＞
◆求人者数、求職者数はともに増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク高山＞
◆求人者数、求職者数はともに増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク恵那＞
◆求人者数は減少、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク美濃加茂＞
◆求人者数、求職者数はともに増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

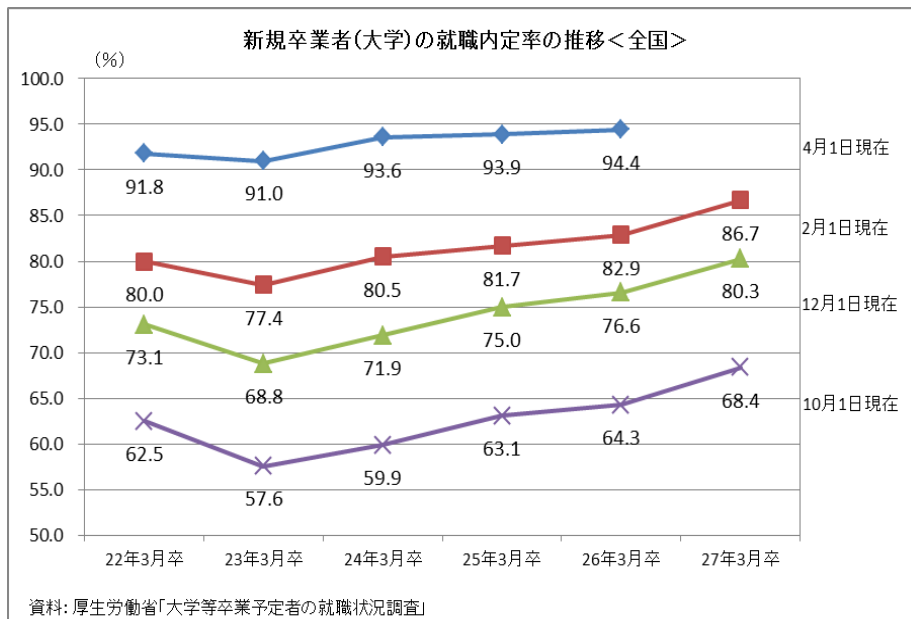
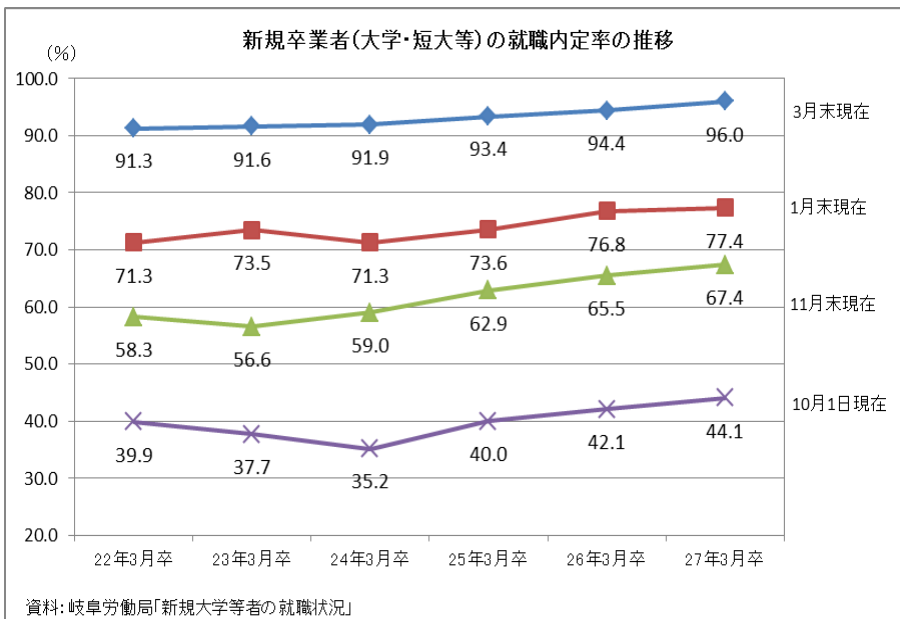
＜ハローワーク関＞
◆求人者数は減少、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク中津川＞
◆求人者数は減少、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数は横ばい。

＜窓口の様子＞
◆大垣、恵那、美濃加茂は混雑。多治見、高山、関は同じくらい。岐阜は空いている。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○3月末時点の大学・短大卒業者(平成27年3月卒業予定)の就職内定率は、前年比1.6ポイント増加し、最近6年間に於いて最も高い水準となった。



現場の動き(平成27年3月卒の就活状況)

【岐阜県内の主な大学】

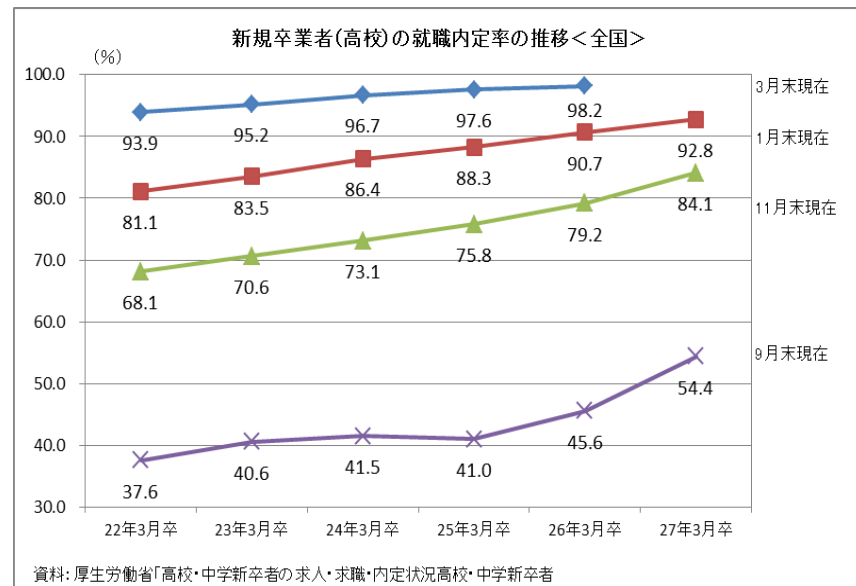
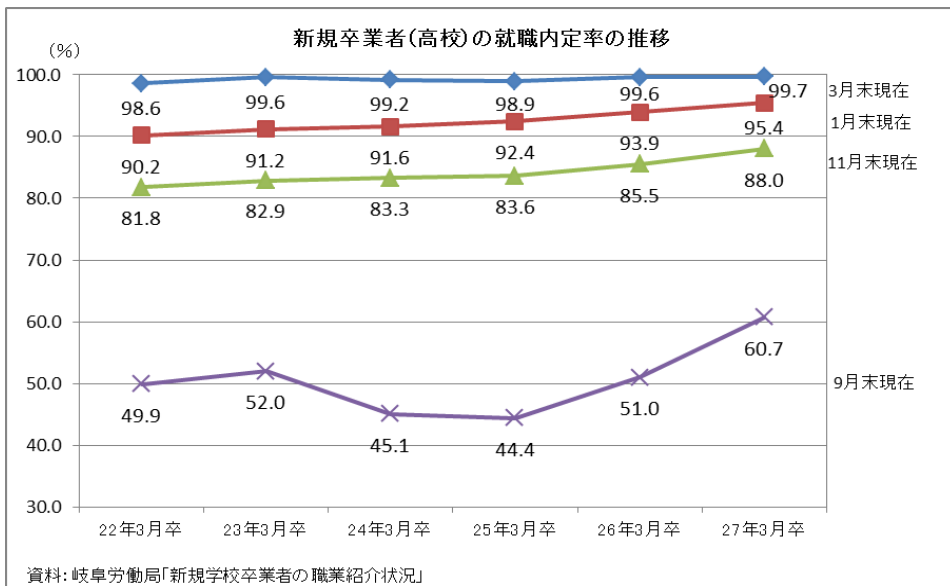
- ◆内定率は3月末の時点で90%を超えた状況。最終的には95%前後になる見通し。
- ◆内定率は3月末の時点で93%前後。未内定の卒業生には個別支援を継続。
- ◆内定率は4月20日時点で96.5%と昨年比1%増加。未内定の学生については、ハローワークとの連携支援を予定。

【愛知県内の主な大学】

- ◆内定率は全学部を通して97.7%で、昨年比1.5ポイント強の上昇。
- ◆内定率は、4月1日時点で98.5%。卒業後も就職活動を継続する学生には、卒業生専用webサイトにより支援。

雇 用(高校新卒者の就職)

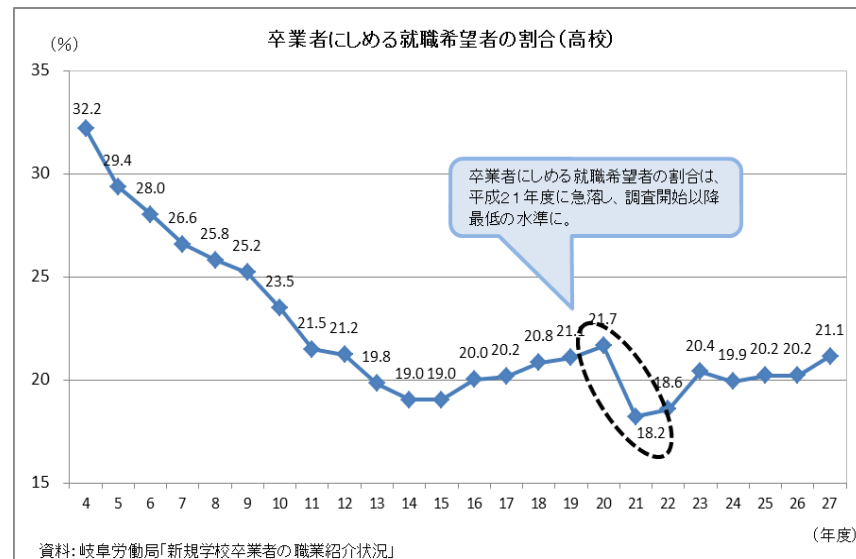
○3月末時点の高校卒業者(平成27年3月卒業予定)の就職内定率は、前年比0.5ポイント増加し、最近6年間に於いて最も高い水準となった。



現場の動き

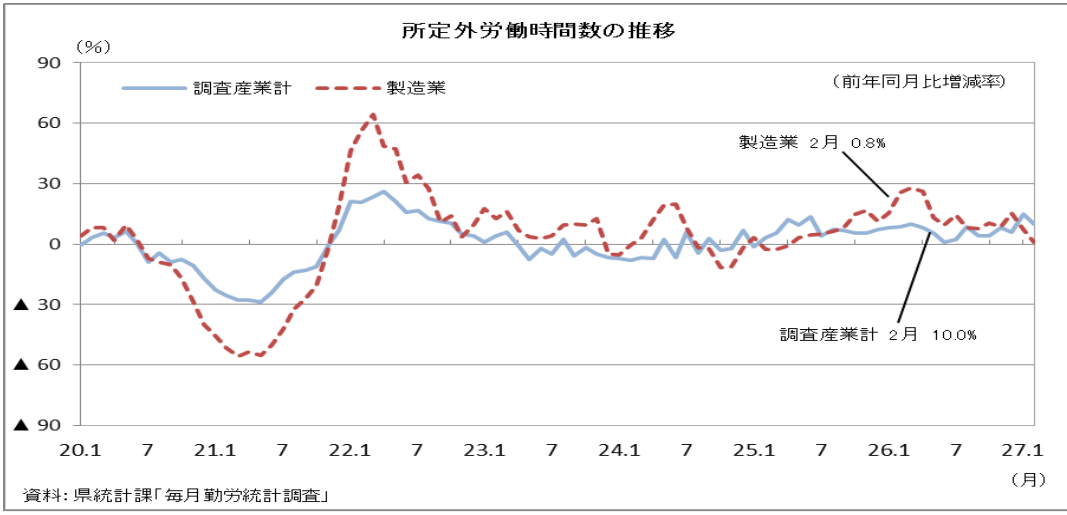
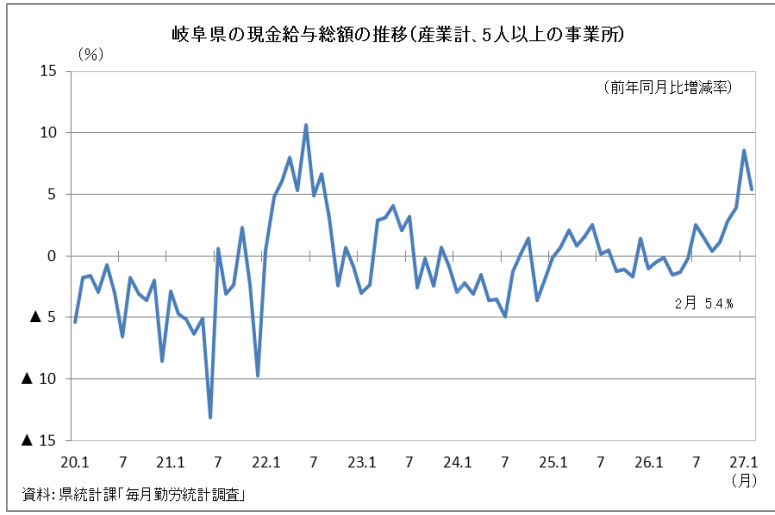
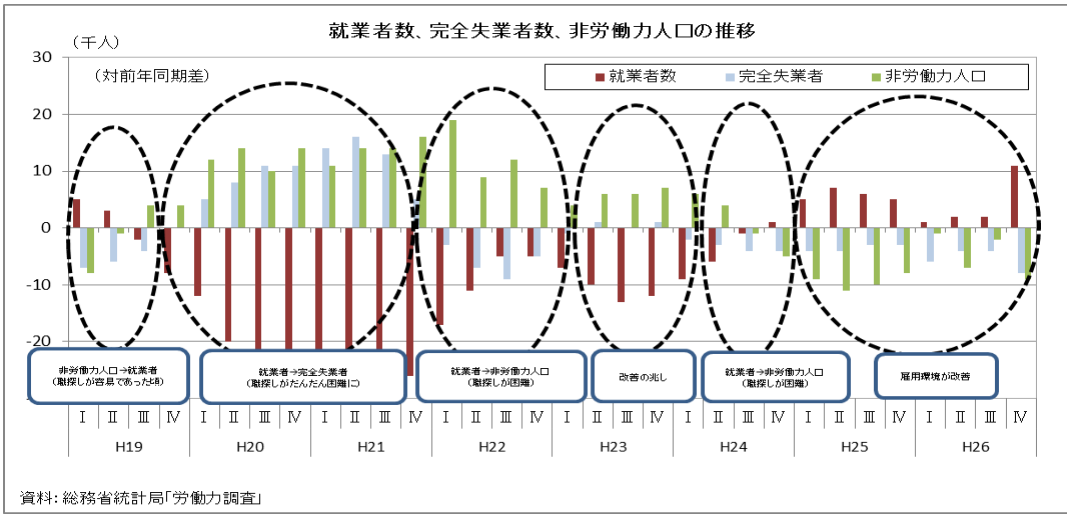
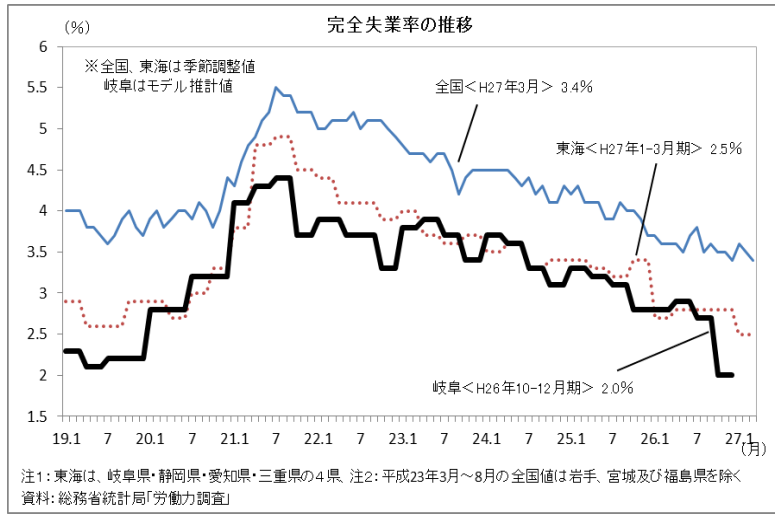
- <ハローワーク岐阜>
- <ハローワーク大垣>
- <ハローワーク多治見>
- <ハローワーク高山>
- <ハローワーク恵那>
- <ハローワーク関>
- <ハローワーク美濃加茂>
- <ハローワーク中津川>

内定は増加。
 内定は横ばい。
 内定は横ばい。
 内定は減少。
 内定は増加。
 内定は横ばい。
 内定は横ばい。
 内定は増加。



雇 用(完全失業率)

- 平成26年10-12月期の完全失業率は2.0%とリーマンショック以前の水準まで改善した。
- 平成21年以降、職探しが困難な状況のなか、平成23年に改善の兆しを見せた。平成24年に再び厳しい状況となったが、平成25年以降に雇用環境は改善している。
- 2月の現金給与総額は8ヶ月連続で、所定外労働時間は25ヶ月連続で前年を上回った。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持しており、大型の設備投資の動きも見られる。
- 直近の円安の動きについては、原材料価格の上昇が続き、製造コストを一層押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く、利益を大きく圧迫している。
- 地場産業は、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いているものの、生産に落ち着きを見せ始めた企業も一部で見られる。
- 個人消費は、全体としては、依然として売上、客数ともに、前年の水準を下回った小売店が多数見受けられるものの、大手小売店や家電量販店等で、売上が前年同月比を上回るなど、駆け込み消費の反動減によるマイナスが一巡した感がみられる。
- 観光は、施設によってバラつきはあるものの、宿泊客数は前年を上回っている。インバウンドは、アジアからの観光客の増加により、前年比で好調を維持している。また、トータルで見た観光入込客も前年比で好調。
- 雇用面では、大学・短大・高校卒業者の就職内定率が最近6年間で最も高い水準となるなど、新卒採用を拡大する動きが見られるものの、製造業の一部や建設業、非製造業では、人手不足に陥っている企業が見受けられる。
- 企業の資金繰りは、改善傾向にある。新規融資実績は減少傾向にあるが、借入難易度は緩やかながらも着実に改善している。